

第1回太宰府市人権センター等整備検討委員会 議事録

1 開会及び閉会に関する事項

① 日 時 令和8年9月18日(金)

14時00分 開 会

15時13分 閉 会

② 会 場 太宰府市役所4階 大会議室

2 出席委員の氏名

会 長 大 貝 知 子

委 員 尾 谷 清

委 員 吉 田 恵

委 員 由 良 尚 子

委 員 平 木 朋 子

委 員 坂 田 真由美

委 員 大 塚 源之進

委 員 宮 本 泰 司

3 欠席委員の氏名

副会長 安 恒 万 記

委 員 川 谷 豊

4 委員を除き会議に出席した者の職・氏名

市民生活部長 友 添 浩 一

人権政策課長 大 山 清 敬

人権・同和政策係長 山 田 秀 信

人権・同和政策係 稲 垣 沙弥子

社会教育課長 立 石 泰 隆

保育児童課長 竹 浦 俊 晴

5 傍聴人

5名

委員会次第

1. 開会

- ◇委員会成立の報告
- ◇委嘱状交付
- ◇市長挨拶

2. 自己紹介【資料1】

- ◇委員自己紹介
- ◇事務局自己紹介

3. 会長・副会長選出【資料2】

4. 議事

- (1) 人権センター等整備の背景・目的について【資料3】
- (2) 各施設の現状と課題について【資料3】
- (3) 施設再編の方向性について【資料3】【資料4】
- (4) 委員会の今後のスケジュール及び協議内容について【資料5】

5. その他

(1) 人権センター等整備の背景・目的について

質問・意見なし

(2) 各施設の現状と課題について

○委員

バリアフリーの状況は今どのようなになっているか。県の施設など基準があるが、それと照らし合わせるとどうか。特に今のところ関係ないので、後の回答で構わない。

(3) 施設再編の方向性について

○事務局

先程「(2) 各施設の現状と課題について」で質問いただいたバリアフリーの件について。エレベーターに限ってのことだが、太宰府市公共施設等総合管理計画 80 ページに、ユニバーサルデザインバリアフリー化対象施設について記載されている。人権センター等については、9 番の南保育所と 37 番の南児童館、こちらがエレベーターについては未設置の状況である。

○委員

2 階建てでエレベーターがあるのは南隣保館だけで、他に福祉トイレの設置なども聞いたかったが、そちらはまた後の回答で構わない。

○委員

多目的トイレは南隣保館、いこいの家にある。南保育所と南児童館にはない。

○委員

南保育所が、一番老朽化が激しいとのことだが、その具体例として何かあるか。

○委員

私がいた時から現在も続いているが、トイレが詰まることが多かったり、ずっと異臭が漂っている感じで、業者をお願いしてもなかなかその臭いが取れない。年月が経っているからだと思う。あと、2 階の部屋などがビー玉を置くと転がり、床が傾いている。先生が机の引き出しを閉めたはずが、戻ってくると引き出しが開いていたことが度々あったと聞いた。

○委員

一部木造とあったが、どのあたりか。

○委員

家庭支援推進室は木造になっている。ドアが木でできており古いのでレールとドアがきっちり合っておらず、私がいた頃には倒れてきたこともあり本当に怖かった。2 年に 1 回ぐらいはそのレ

ールとドアの調節をしてもらっていて、完全にもうこれで大丈夫というようにはならなかった。

それから、ドアのこどもたちが手を当てる場所がささくれたりするので、先生がペーパーでしょっちゅう磨かないといけなくなり、余計な仕事が増える感じだった。先生方がこどもに接するよりも、怪我をしないように対策していた。最近所長と話した時も、木のささくれのようなものがこどもの髪の毛にくっついていて、それがもし刺さっていたら怖い、日常でそういうことがあっていると聞いた。

窓のサッシも、鍵をかけるところがしょっちゅう傷んできて、修理してもまた同じようになってしまうと聞いた。私がいた時は、普段の雨ではそこまでないが、台風のような雨風が強い時になると雨が入ってくることがあった。こどもたちが園庭で遊ぶ予定だったのが、雨が降った翌日、園庭の水たまりが捌けず、室内でしか遊べない状況がしばらく続くということも聞いている。

園庭の遊具のペンキも、遊具の専門の方に見てもらいを塗り直したりしてもらっている。毎年のようにおかしくなってしまうということは聞いているので、早急になんとかしてもらわないといけないと思っている。

○委員

こどもたちには今まで事故などはなかったか。

○委員

なかったので本当によかった。

○委員

南隣保館はどうか。

○委員

雨が降ったら雨漏りする。老朽化のため、壁の亀裂の辺りから水が染み込んできたりする。事務室が雨漏りするので事務室はタオルをたくさん干している。それから、雨漏りするので、水が壁に流れてクロス辺りにも影響している。

○委員

カビから気管支に影響したり喘息になったりするので、特に保育園などこどものところは大変。

○委員

現場を見たらよく分かると思う。

(4) 委員会の今後のスケジュール及び協議内容について

○委員

先ほど委員の発言のように、ご自分が関連している施設の状況の話を出していただけるとありがたい。基本的にどこも耐用年数が上がっているため、大規模改修はあまりされていない。ということは、部分的に、例えばバリアフリーや、トイレの形を変えたとしても、全体としての長寿

命化するなどの方針は予算に響くため、そう簡単に長寿命化も図れず耐震化もされていない。

ただ、今は施設再編をしていかななくてはならない話が出てきており、近接型（Ⅰ）として検討していく方向なので、関連している施設がどれだけひどいかをどんどん出してほしい。今のうちに意見をいただき、内容を頭に入れてから施設を見にいくほうがいいと思う。

○委員

先ほどの南保育所と一緒に、南隣保館も調理場のあたりが傾いている。それからこの間の熊本地震の時は揺れをより感じた。部分的に増築もしていて、増築した部分と本体の部分の間に少し隙間ができています。

○委員

私たちは今建物の話をしているが、全体として道路や橋梁などのインフラもどこも結構傷んでいる。これから補修が重要になってくるが、日本中同じ状況で、建物にどう予算をつけていくのか、インフラ整備をどうしていくのかというのも、国の予算が細ってきているので、かなり自治体にとっては厳しいことになる。なので、できるだけお金をかけずに、手間はかけて、民間の活力を利用して、少なくとも民間の活力が上がるような形の設計をしたいというふうには考えておられる。個別にあった施設が複合化されていくと、男女共同参画の施設など自分たちの存在意義が薄れるという意見も資料にあった。そのように悪いところもあるが、逆に言うと、複合化して施設を共有する形をとると、将来的な維持管理費は下がり、集約されることで同じ場所に人が来るのでより使える、とも考える。

先程話があった配置検討案だが、実際には非常に難しい。例えば南保育所を含め全体を一体化しようとする、南保育所がなかなか整備できないということもあるし、どこが一番いいのかという落としどころを考えていかないといけない。もう一つ動いている五条地区活性化検討委員会の、全世代型の施設の統合というような話が具体的にできると、こちらで何ができるのか議論内容も変わってくるかもしれない。

民間を入れるにしても、市にメリットがあっても、彼らにメリットがなかったら来ないので、難しいができるだけ民と官がうまく連携し、うまく両方ともプラスになる、使う税金を減らしながら、様々なサービスを提供できるようにしないとけない。良い面悪い面あるが、少なくともお金を外から地域の中で回していく時に何が最適か考え、意見を出していくようにしていきたい。

○委員

6月23日の新聞に地震を想定した具体的な記事が出ていた。震度7が太宰府市に想定された場合の被害状況は、今太宰府市が思っているものの8倍くらいひどく、2万人以上の人たちが避難する必要があり、4500の家が倒壊するなど、それくらい大規模になることが想定されていた。なので私たちは住民の立場として、その2万人がどこに避難するのか、どれくらい市民にコミュニティがあるのか考えた時に、このような複合施設等々の人が集まるところで顔見知りになって、人と人とのコミュニケーションが取れると、そういう時にすごく良い方に作用していくのではないかと私たちはよく勉強する。

なので、お金をかける、かけないは置いておいて、市民のニーズを聞き入れて、そしてどれくらいの予算が使える、どれくらいの規模のことができるのか、具体化に向かって目標を定めていくのがこの会議なのかなと思った。老朽化、災害、コミュニティにかかっていくのかなと感じた。

○事務局

パーソナリティの確保などいろんな考え方はあるが、どうしても何かあった時は地域の助け合いが必要になってくる。

今日新聞に中学生の避難訓練について書いていたが、中高生、小学生も含めて、今から時代を担うこどもたちは、実際の避難時には、支援する側として非常に活力になると思う。そのためそういったこどもの育成などの視点も含めて様々な考え方があっていいと思っている。今後参考にさせていただきたい。

○委員

単純な話だが、今利用者はどのくらいいるか。南保育所は入所者数が 90 名とあるが、いこいの家は横ばいとなっている。

○事務局

南隣保館は、令和 7 年度の年間延べ利用者数が 2 万 4,000 人。様々な会議や交流会などの事業の参加人数も含んでいる。老人いこいの家の年間延べ利用者数は 6,500 人程度で、月平均延べ大体 5~600 人の利用がある。1 日の平均の来館者数は 25 名前後となっている。南児童館の年間延べ人数は大体 2,300 人となっている。

○委員

全体を見ると、プライベートでの使用が増え、講習会などの公的な使用がコロナ以降減っている状況ということか。老人いこいの家は平均来館者数 25 人×20 日×12 か月で計算すると年間の延べ利用者数と近く、このことからリピーターがよく使っているという状況が見える。施設の中には固定した常連さんのような方たちがよく使われていて、なかなか新しい人が来れないという場合もある。ただ、そのあたりが公的な施設の難しいところで、変な宣伝を打てない。かといって人気のある人を呼ぶお金はない。そのようなところでどこも非常に苦労している。人をどうやって集めていくのかということでも苦労している。それが統合化されたら若干良くなるかもしれないし、使い方次第で埋もれてしまうことになるかもしれない。

○委員

老人いこいの家、南隣保館は、今年 4 月から保健師さんに来ていただけるようになった。保健師さんが動き回っていただいて、地域の方々の健康を見ていく中で老人いこいの家につながったり、南隣保館から相談受けたりすることで利用者も少しずつ増えている状況。

○委員

やはり健康が一番。福祉というと、健康増進とか、健康年齢をどこまで引き上げていくのかとかいうことが大切な課題になってきている。とにかく医療費を減らすと言われているが、良い取り組みだと思う。施設が複合化するとまた何かできることがあるかもしれない。

例えば統合化することによって、例えば太宰府は階数制限されており、賃貸で大野城や春日の

ようにぼんぼんマンションが建たないため、住みたくても借家が少ないということがあるかもしれない。そうすると、逆にそういうのを上に積むなどで民間活用できるかもしれない。夢はいろいろ膨らむ。ただ、その夢をどこまで実現できるか、コンサルを入れてどのようにまとめるのか、それは私たちの意見をどこまで入れられるのかということにかかる。

○委員

お年寄りが月に一回公民館で一緒におしゃべりしたりするグループがあり、それにボランティアで行っているが、その中で話を聞くと、こどもたちと七夕やクリスマスの飾り付けなど、一緒に行事をできたら、もっと自分たちの気持ちが若返る、生き甲斐になるみたいな話を聞くので、同じフロアでこどもと接する機会があるとすごくいいと思う。

それから、高齢者になると膝が悪くて階段を登れず、手を取って一緒に部屋に連れていくことが多いが、スタッフは限られており全員にできないので、こどもと一緒に階段を上がるということができれば、一緒に建物の中で共有できれば一番いいなと思う。

○委員

実際にこの4の表の中でまとめている。統合化されたものの中で、特に久留米のコスモスマイルは近いが、実際に行ってみたか。前から言われているのが、高齢者施設と保育園を一緒にするなど。幼稚園と一緒にするというのは、よく東京など大都市でよくされている。あれも事故が起きた時の対応など気の利かせ方は大変だが、少なくとも日常的なうまくいっている時は交流ができていい、特に高齢者とこどもは相性がいいと聞く。今回の統合された施設でも可能性としてはできるかもしれないし、人とのつながりをその中で生み出せるような形の統合化というのがいい。

○委員

実際に南保育所と老人いこいの家の高齢者が定期的に交流している。やはりこどもたちも高齢者も喜んでいる。朝に散歩で老人いこいの家に行って、効果がとても得られているので、施設が1つになれば、そういう交流はより密になると思う。

○委員

今、世代を超えた関わりが一番重要。小学生ぐらいまではお年寄りと相性がいいが、中学高校になってくると離れていく。ただ、中学生にしても、話を聞くと、お年寄りではなく留学生など外国の方と仲良くなりたいという声が結構大きい。様々な接触の機会があれば、そのようなことを種にして、いろんなことを考えるようだ。

福岡市中央区草ヶ江でも、留学生に日本語を教える学校があり、30 年ぐらいそこでやっていたが、城南線の拡張で外に出て行って、また帰ってくるということがあった。城南線の拡張で 400 平米ぐらいあったのが 141 平米しか残っておらず、こんなところで建てないだろうと思っていたら、7 階建てで、オフィスビルを建てると。駐輪場がないので、私たちは駐輪場をどうするのかという話をしたら、少し離れたところに寮を建てて、100 台近くの駐輪場を作り、これから歩いて来させると。ただ、すごく小さいところに来たら大変なことになると私たち大人は違法駐輪と留学生対策をどうしようと思っていたが、中学生の子があとから公民館を訪ねてきて、留学生と一緒に

に何かして交流したいと言い出した。違う目が生まれてくるなということは感じた。

だから、考えたことはどんどんぶつけてほしい。できないことはコンサルもプロなので、それは難しい、これは考えましょうなどと言ってくれる。事務局の方もそっちの方が楽しいはず。何も意見がなかったら、これでいいのかとなるので、相乗効果でもっといいものができるように。

○委員

お年寄りとか、それから保育園、児童。こういう集まる場があったら活性化するというのは前から思っていた。2つの違う施設をどのように絡ませていくのかというのが、大事な我々のアイデア出しがいかと思う。

○委員

例えば男女共同参画など、埋もれていったら埋もれたでいい。埋もれるということは、男女共同参画ができつつあるということであるため。ただ、DV だとか逆 DV だとか、そうはいかない問題もある。

やはりその時その時の新しい問題が出てくる。ただ、このような施設を一体化するときには、例えば総務省、文部科学省、厚生労働省など管轄が分かれているためそう簡単にはならない。特に施設を使う時に、これとこれと一緒にしたら絶対にいけないという可能性もある。そのようなこともあり、言ったことがすべて OK になるわけではないが、少なくとも考えさせるということでは役に立つ。

○委員

この4施設をまず目で見てみたいというのが今の正直なところ。実際に見ることで、こうしていったらいいのではないかという点がそれぞれ見えてくるのではないかと思います。

○委員

雨漏りや壁の状況など、見ないとわからないことも多くある。特にこどもがいるので南保育所が一番の緊迫の課題だと思う。

○委員

地域の立場なので、一言で言うと地域と連携できる仕組みにしてほしいと思う。地域とつながりを持てるところをベースに考えたいと思っている。

○委員

一つ一つの地域が、例えば複合化するような施設とどう関わっていくのかなど、私も外から来ているのでよく見えないところがある。そのような意見をいただけると助かる。今日はユニークな意見が出てきたと思っている。